

「集約型都市構造の実現に向けて」

国土交通省都市・地域整備局街路課
廣瀬 隆正 街路事業調整官

これからは、人口が減少する時代になった。今までの都市計画や都市整備は、人口が増加し都市化が進むという前提で作られている制度である。世帯数は、増えているがこれも近々減っていく。



高齢者が増え、自動車を運転できない、移動が困難な人が増えてくると考えられる。

一方で地球温暖化防止に関する CO2 削減目標を達成できないのではないのかという心配がある。運輸部門とりわけ自動車利用をいかに減らしていくのかが重要。

ところが公共交通は、どんどん使われなくなっている。日本の国全体では、欧米に対し、機関分担率は高いが、地方

都市では厳しく、自動車が無ければ生活できない状況。公共交通は、利用者が減って、廃線やバスの減少が進んでいる現状。これをモータリゼーション・スパイラルと呼んでいる。車が増えてバイパスを作って、高速道を作って、その結果、車がまた増えて、大規模ショッピングセンター、病院、県庁、市役所が車の便利なところへ移る。高度成長期は、これの繰り返し、これをほおっておくと、車依存の社会になってしまい環境負荷の大きな街が出現する。

もう一度、市街地内の鉄道・バスの便利な場所にいろんな機能を集約して行くのが、一番いいのではないのか。広く薄く広がった市街地は、行政コストが大きくなるのは解っている。これを選択するのは、住民とそれぞれの自治体の仕事。

では、コンパクトな街にするには、どのようにしたらいいのか。まずは、歩いていける、あるいは自転車近くまで行って、日常活動が出来るというのが一番いいのではないのか。それは、昔の暮らしに近いものということ。もう一つは公共交通の拠点にそういう街を創る、ということを考えている。都市交通と都市整備の施策を一緒にやって、まちづくりを徹底して行くのがいいと考えている。

街路事業は、単に都市計画道路の整備を粛々とやるのが仕事。今までは、道を拡げて混雑を解消することを考えていたが、最近ではむしろ道をどうやってつかうか、というようなことをやる必要がある。

山形市内の中心市街地も、これほどまでに事業を展開している市は、珍しい。ただ造ってどのようにやって使っていくのかが一番重要と考えている。

最後に道路の中期計画について、13日に素案を発表した。詳細は国交省のホームページをみればわかってもらえる。道路局と都市・地域整備局が苦労して作った。見ていただいてご意見を頂きたい。皆さんの意見が政策に反映される。よろしくお願ひしたい。



平成 19 年 11 月 15 日
メトロポリタン山形（山形市）にて